

会 議 録

会 議 名	八王子市社会福祉審議会児童福祉専門分科会 子どもにやさしいまちづくり部会 平成29年度 第2回会議	
日 時	平成29年 6月26日(月) 午後6時40分～ 8時10分	
場 所	八王子市役所 本庁舎 502会議室	
出席者氏名	委 員	井上仁部会長、中込順子副部会長、荒井容子委員、石田健太郎委員、岡崎理香委員、立石晴美委員、(部会長、副部会長、以下五十音順)
	関連所管	
	事務局	中正子どものしあわせ課長、渡邊児童青少年課長、大澤課長補佐、後藤主査、井垣主査、永井主査 他
欠席者氏名	後藤高浩委員、田中伸幸委員	
議 題	報告 1 学生リーダー企画会議について 議事 1 市制100周年記念ビジョンフォーラムについて 2 子どもへのアンケートについて	
公開・非公開の別	公開	
非公開理由		
傍聴人の数	0名	
配付資料名	資料1 子ども企画委員及び学生リーダーの参加状況について 資料2 「子どもミライフフォーラム・明日へつなぐ」実施概要(案) 資料3 子ども ミライ会議アンケート調査(案)	
会議の内容	別紙のとおり	
会議録署名人	平成29年11月14日 立石晴美	

【井上部会長】定刻になりましたので開会いたします。

初めに、事務局から何かございますか。

【事務局】本日お配りした資料は、公開を前提としていない学校名や、まだ正式に業務依頼をしていない相手方の氏名が入っておりますので、非公開の扱いでお願いします。会議後、会場に置いて行っていただくか、持ち帰る場合は外部の方の目に触れないよう、お願いいたします。

【井上部会長】それでは、前回の部会以降、学生リーダー企画会議が開かれていますので、その報告をお願いします。

【事務局】子ども企画委員は、小学生から高校生まで18名集まりました。子ども企画委員のうち、子ども意見発表会の経験者が4名おります。地域的には、ある程度全域からまんべんなく集まっていたという認識です。学生リーダーは、6名が集まりました。経験者が3人います。この後も、もしかしたら新たなメンバーが加わってくるかもしれません。

昨年までの意見発表会では、職員が学生を主導していましたが、今回は、企画段階から学生に情報を提示して、そのもとで、大学で学んでいることなどを生かしながら、子どものワークショップを学生自身で組み上げてみる、自分たちもまちづくりの一員として加わってもらう、そういったコンセプトがあります。

7月23日には第1回子どものワークショップを開催しますので、そこで平成25年度のアンケートをベースに、新たなアンケートを考えていく予定です。

【井上部会長】若者育成という機軸の中で、ミライフオーラムの中に学生リーダーの位置付けを明確にしてもいいのかな、出番を作ってあげないといけないのかな、と思いました。

石田委員はリーダー会議をご覧になっていますが、いかがでしたか。

【石田委員】各メンバーが真剣に考えていました。一方、やはり時間が足りないな、という感じがしました。また、学生自身がどう楽しみながら次世代の育成に関わっていくか、アイデアが必要かと思いました。うまく回っていくといいなと思います。

【井上部会長】学生を使うだけ使っておしまいになってはいけないと思います。

【岡崎委員】この6名以外に、学生リーダーに加わる可能性がまだあるということでしたが、これからやりたいという方がいたら増やすのですか。

【事務局】例えば児童館の中でボランティアをやっていて、現場のアンケートだけ、又は当日の運営だけ協力したりする方が出てくるかもしれないということで、あくまで中心は

この6名になると考えます。

【井上部会長】学生リーダーは、児童館職員が育ててきた努力のたまものであって、八王子に学生リーダーを育成するというちゃんとした仕組み、位置付けがありません。下の層を育てないといけないという課題がありますね。

【岡崎委員】市内の大学に声掛けをすれば掘り起こせると思います。

【事務局】児童館は、市内の大学のボランティアセンターと関わりを持っています。単発のイベントへの協力であれば、学生はよく参加していただけます。しかし、今回の活動のように長期にわたり子どもたちを支援してほしいとなると、現実には難しいです。

【井上部会長】区部には上手にやっているところがあります。子どもの居場所事業のような場に参加している学生を別の活動に結びつけたりかしています。受け皿をわかりやすくすれば、学生は来るかもしれません。

【岡崎委員】継続的に地域活動に参加しているサークルは結構あります。

【中込副部長】インターンシップ制度のような仕組みを参考にしたりできるかもしれません。

【事務局】学生の活動がサークル化していれば活動は続きやすいと思います。

【井上部会長】これらは将来課題ですが、いずれにしてもミライフォーラムで若者の力を見てもらう場面がないとしたら、もったいないと思います。

他に何かありますか。この件はよろしいですか。

では、次、ミライフォーラムについて事務局から説明をお願いします。

【中正子どものしあわせ課長】子どもミライフォーラムは、7月から11月までの間に行われる8つのフォーラムのしめくくりとして行われます。子どもたちが八王子のまちについて考えて、意見を発表し、さらに大人が意見を受け止めて、共にまちづくりの提言をまとめていくことで、これからの100年に向け、子どもがまちづくりに参画するきっかけとする、ということを考えております。

フォーラム終了後は、グランドフィナーレを続けて開催し、その終了をもって100周年記念事業が幕を閉じることになっています。

フォーラムは午後1時から2時間半の予定で、3時半からグランドフィナーレが始まることとなっています。基調講演、映像投影、意見発表、パネルディスカッションを組み合わせますと、非常にタイトなタイムスケジュールとなっております。時間配分が難しいと感じております。

意見発表の場では、8つのフォーラムで出た意見、提言を中学生に発表していただき、続いて、子ども企画委員からまちづくりについての意見、提言を発表していただくという内容を考えております。その後休憩をはさみ、パネルディスカッション1時間を予定しています。

パネルディスカッションのメンバーは、現在のところ、コメンテーター、モデレーター、パネリストに大人4名と子ども3名、計9名を想定しています。

参考ですが、7月に開催予定の健康福祉フォーラムに向けた準備として、先日、由木地区の中学生による事前討論会を実施しました。討論会参加者からフォーラム当日に意見発表を行う生徒とパネルディスカッションに参加する生徒を選びました。他のフォーラムも大方こうした準備を経て進めていく予定となっております。

子どもが行うミライフォーラムの内容については、現状の案ではまだ課題があると感じています。委員の皆様からご意見をいただければと思います。

【井上部会長】パネルディスカッションの時間が1時間だとすると、メンバーは5人くらいが適切ではないでしょうか。大人はできるだけコンパクトでいいと思います。例えば若者代表、子ども代表、市長、教育長、民間代表とか。コメンテーターはディスカッションに参加せず、最後にコメントをもらえばいいと思います。

【石田委員】市長はここではなく、グランドフィナーレで子どもの意見を受け止めたお話をいただくとか、そういう案も考えられると思います。

【岡崎委員】子どもの意見を「子ども宣言」のような形にまとめ、グランドフィナーレで子どもから宣言を受け取った市長がコメントをする、そのほうが格好がいいのではないのでしょうか。

【井上部会長】いいかもしれないですね。パネルディスカッションのテーマによっても、さまざまなパターンが考えられます。未来を中心にするか、やさしいまちを中心にするか。

【中正子どものしあわせ課長】そこは両立させたいという思いがあります。未来につながるために子どもの意見をきちんと聞き、子どもがいいと思い、みんながいいと思うようなまちづくりを進めていく。課題がわかりました、さあみんなでやっていきましょう、と。

【井上部会長】でしたら、行政1人でもいいかもしれません。あとは子ども委員とリーダーと。民間はどうでしょう。どういう方がいいのでしょうか。

【中正子どものしあわせ課長】ここで具体的に思いつかなければ、後日、子どものしあわせ課にふさわしいと思われる方の案をお寄せください。

【井上部会長】テーマ、メンバー、順番等、企画は概ねこの形でよろしいですか。

最後に子どもたちの代表が、「未来宣言」のような形で、子どもたち自身も頑張るという意思表示と、こんな未来にしてほしいというお願いの両方があるような宣言をここでしていただく。それを最後に市長に手渡して、グランドフィナーレにつなぐと。

後に続くグランドフィナーレの内容がまだわからないというのが不安です。ミライフフォーラムの内容とかみ合わないようなフィナーレにならないよう望みます。

では、次に児童館で行うアンケートについて、案を用意していただいておりますので、事務局から説明をお願いします。

【事務局】今回は、平成25年に行ったアンケートを基に、やさしいまちづくりにつながる質問を選んだ形で案を作成しました。各児童館で手を挙げてくれた子ども委員と学生が中心となって夏休みにアンケートを取ります。また、児童館以外にも広げた形で取りたいと思っております。集計・分析は各児童館で行い、まとめた意見をパネルの形にし、フォーラムの会場に展示したいと思っております。集計データは全体の子ども企画委員にも渡し、参考にしてもらう予定です。

平成25年のものから選んだ質問は、5年前との変化も見たいと考え、文章は変えていません。ただし、未来の八王子といったテーマに関する質問を付け加えたら、との意見がありましたので、問13番と問14番をそうした内容の質問に置き換え、未来の八王子のイメージについて質問し、「安全なまち」「きれいなまち」などの中から選択する方式で回答してもらうことを考えています。

【井上部会長】後段に「ここからは中学生以上が答える」と書いてありますが、中学生以上に限定する必要はないですよ。あと、問15の悩みを聞く質問も削除していいかと思えます。問13、14の部分には、自由記入欄もあるといいと思います。最初の児童館の利用についての質問は、下に下げたほうがいいと思います。

他に、このような質問も加えてみたらなど、何かご意見ありますでしょうか。

【石田委員】有効性感覚のような、「子どもの意見を聞いてもらっていますか」ということを聞いてはどうでしょうか。

【井上部会長】テーマが子どもにやさしいまちですから、確かにそうですね。「はい」と答えた子どもには、「誰に聞いてもらっているか」も聞いてみるといいかもしれません。選択肢に親、先生、児童館の先生とか。行政の職員も入れたいところです。

【岡崎委員】問10に似ていますが、「大人になっても八王子市に住みたいですか」などは

どうでしょう。

【井上部会長】それもいいかもしれません。

あとはよろしいですか。あまり多くても子どもの負担になってしまいますので、このくらいでよろしいでしょうか。では、あとは事務局のほうで、このような形でお願いいたします。

あと、この部会では、まちづくりへの恒常的な子どもの参加の仕組みづくりについてやり残していますので、次回はその点について議論を再開したいと思います。

では、本日はこれで終了します。